

世界遺産暫定一覧表記載資産候補の提案書

# 立山・黒部

～ 防災大国日本のモデル - 信仰・砂防・発電 - ～

平成 1 9 年 9 月

富山県

富山市・黒部市・上市町・立山町

## 目 次

### ( 1 ) 提案のコンセプト

資産名称・概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

写真・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

図面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

### ( 2 ) 資産に含まれる文化財

整理表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

構成要素ごとの位置図と写真・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

### ( 3 ) 保存管理計画

個別構成要素に係る保存管理計画の概要、又は策定に向けて  
の検討状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

資産全体の包括的な保存管理計画の概要、又は策定に向けて  
の検討状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

資産と一体をなす周辺環境の範囲、それに係る保全措置の概  
要又は措置に関する検討状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

### ( 4 ) 世界遺産の登録基準への該当性・・・・・・・・・・・・ 26

## (1) 提案のコンセプト

### 資産名称・概要

資産名称

立山・黒部

～ 防災大国日本のモデル - 信仰・砂防・発電 - ～

### 概要

立山・黒部地域は現在も隆起を続ける 3,000m級の急峻な峰々から成り、水深 1,000mの富山湾の最深部までわずか 50kmにある。また、冬季には室堂で 8 mもの積雪をみる豪雪山岳地帯である。年間 6,000mm 超の降水は、常願寺川や黒部川などの急流河川となって富山湾へ注ぎ込み、広大なカルデラ状の地形や厳しいV字状峡谷などの自然景観を生み出している。このように、立山・黒部地域は世界的にも類例のない特徴を持つ自然環境をなしている。その常願寺川と黒部川は下流域で古くから幾たびも甚大な災害を引き起こしてきた。特に、安政5年、マグニチュード7の大地震に起因する大規模な土石流は、常願寺川下流の多数の町や村に未曾有の壊滅的被害をもたらした。永年災害に翻弄されてきた人々は厳しい自然に深い畏敬の念をいだき、独特の立山信仰に収斂した。近代に入ってから、下流の安全を確保する多様な防災施設群を苦難を越えて建設し、また、その巨大な水エネルギーを変換する発電施設群を厳しい自然環境と闘いながら設けた。立山・黒部地域には、自然災害から暮らしを守り続けてきた人間の営為を刻む資産が集約的に存在し、いわば自然災害に対する防災大国日本のモデルとして、世界でも類稀な山と水と人の織りなす文化的景観が形成されている。

#### 【信仰 - 山と水を畏れ敬う資産】

古来、立山の厳しい自然を人々は畏れ敬い、万葉集にも、立山は神々の住いする峰々として詠われ、信仰の山として崇められてきた。清冽な水の景観と熱煙立ち込める火山の光景は、地獄極楽の世界観を体現するものとして平安時代から全国に知られ、日本人の他界観に影響を与えた。また、江戸期には、険しい谷川に架けられた橋を白装束の女人が渡ることによって魂が救われるという全国で唯一の布橋灌頂会が催されるなど、女人救済の山となってきた。日本で最高所で最古の山小屋である「立山室堂」や巨岩に刻み込まれた「大岩日石寺石仏」に、人々の深い畏敬の念を読み取ることができる。

#### 【砂防 - 山と水を治める資産】

安政5年の大地震によって4億 $m^3$ の土砂が崩壊し、これが災害の原因となって下流民の大きな脅威となった。未曾有の災害に対処するため、明治39年に県営砂防事業が始められ、大正末には国直轄の砂防事業が導入されることとなった。欧州の技術を学んだ立山砂防工事事務所初代所長の赤木正雄は我が国の伝統的な山腹工に加え、カルデラの出口に巨大なコンクリートの堰堤を構築するという画期的な砂防事業を立案した。立山砂防は100年を超える国家的事業として過去・現在・未来に継承されているが、ここを端緒とする砂防理論は世界の砂防技術を飛躍的に発展させ、治水の根幹理論として普及浸透し、1951年ベルギーで開催された国際水文科学学会において、『SABO』は国際語として使用されることとなった。今日、日本の砂防技術はアジア、アフリカ、中南米など土砂災害対策を急務とする国々に移転され、世界の防災対策に大きく貢献している。高さ108mの「白岩砂防堰堤」、貯砂量500万 $m^3$ の「本宮砂防堰堤」など、立山カルデラの砂防施設群は、他に類例がない『山と水を治める』人類の成果として未来に残すべき文化的景観である。

#### 【発電 - 山と水を活かす資産】

立山・黒部地域の急峻な河川は、天恵のエネルギーの源でもある。『山と水を活かす』ため、大正末に常願寺川の上滝発電所が建設されたのを皮切りに、黒部川でも大正期から本格的な電源開発が始まった。昭和初期には、日本を代表する建築家・山口文象の設計による「黒部川第二発電所」など、自然環境との調和の理念にもとづく電源開発施設群が建設された。『山と水を活かす』これらの施設群は、水と渓谷の自然美に溶け込んで一体化した優れた文化的景観である。

## (1) 提案のコンセプト

---

写真

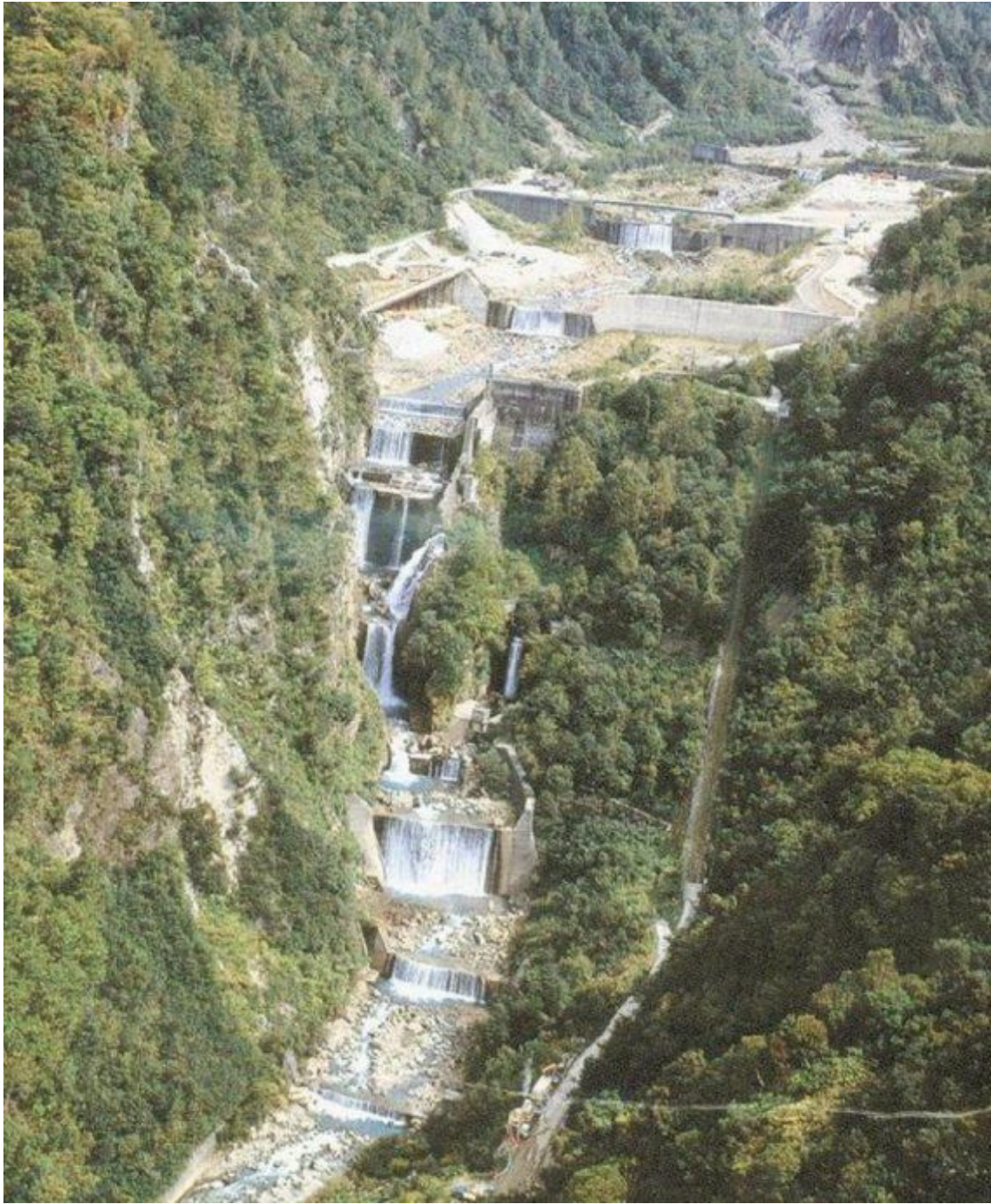


霊山・立山



立山信仰史跡（大岩日石寺石仏）





立山カルデラ砂防施設（白岩砂防堰堤）





立山カルデラ砂防施設（本宮砂防堰堤）

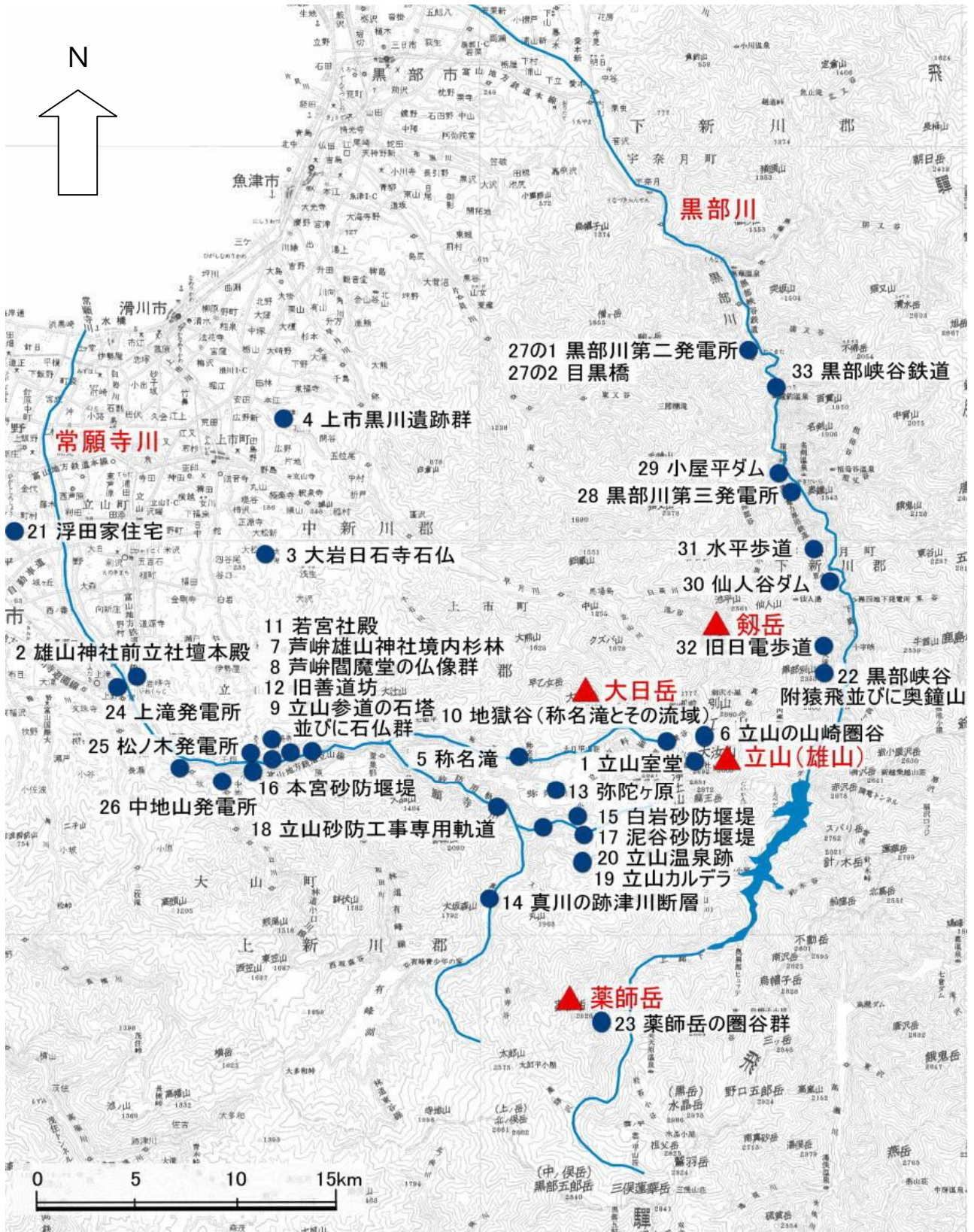


黒部川電源開発施設（黒部川第二発電所）



# (1) 提案のコンセプト

図面



国土地理院発行の20万分の1地形図(富山・高山)

## (2) 資産に含まれる文化財

### 整理表

#### (ア) 信仰 - 山と水を畏れ敬う資産

	資産の名称	保護の主体	保護の種別	面積	概要
1	立山室堂	国	重要文化財	約140m <sup>2</sup>	国内最古で最高所に所在する重要文化財の2棟の山小屋建築で、各5間×4間の大きさの木造切妻造建築物である。北棟は享保11年(1726)に、南棟は明和8年(1771)に加賀藩により建設され、太い柱や厚い板など厳しい自然条件に対応した豪壮な構造となっている。
2	雄山神社前立社壇本殿	国	重要文化財	約120m <sup>2</sup>	立山信仰の里宮にあたる前立社壇で、室町時代後期の木造檜皮葺五間社流造の神社建築である。外観は大規模で豪壮な建築で、内陣には漆工芸や金箔金具の華麗な装飾がみられる。立山信仰の成立と発展を考察する上で貴重な文化財である。
3	大岩日石寺石仏	国	重要文化財(史跡)	2,200m <sup>2</sup>	巨岩に不動明王坐像を中心とした5体の仏像の浮き彫りで、平安時代中期に山岳信仰の拠点寺院に設けられた巨大な磨崖仏である。劔岳を信仰の対象とする山岳信仰と追刻された阿弥陀如来坐像により、古代における仏教の受容過程が理解される。
4	上市黒川遺跡群	国	史跡	10,800m <sup>2</sup>	平安時代から鎌倉にかけての劔岳を対象とした山岳信仰の拠点としての性格を示す経塚、墓跡、寺院跡の遺構が存在する。円念寺山経塚では24基以上が確認され、北陸地方最大の経塚件数を誇る。経塚容器や密教法具など貴重な信仰用具が出土している。
5	称名滝	国	天然記念物・名勝	約465,000m <sup>2</sup>	称名川は弥陀ヶ原台地の北端をV字状に深く侵食し、落差が日本一の350mの大滝となって落下する。滝の轟音が念仏の称名に酷似することから命名されたと言われ、立山の大自然を信仰の対象とした象徴のひとつである。
6	立山の山崎圏谷	国	天然記念物	670m <sup>2</sup>	雄山山頂の東側直下にある圏谷で下部にはモレーンが三段に形成されている。明治時代に山崎直方博士によって発見され、日本に氷河が形成されていたことを立証した記念物である。
7	芦峯雄山神社境内杉林	県	天然記念物	約18,000m <sup>2</sup>	近世に立山信仰の中宮寺であった芦峯寺の雄山神社の境内には、樹齢300～500年の100本以上のタテヤマスギ巨木が生育しており、立山信仰の祈願殿にふさわしい尊厳な雰囲気醸し出している。
8	芦峯閻魔堂の仏像群	県	有形民俗文化財	約70m <sup>2</sup>	中世から山岳信仰の宗教村落として繁栄した芦峯寺地区内に設けられた閻魔堂には、平安時代から江戸時代までの閻魔王をはじめとする十王の像など13体が安置されており、江戸時代に行なわれた布橋灌頂会の重要な施設として立山曼荼羅に描写されている。
9	立山参道の石塔並びに石仏群	県	有形民俗文化財		里宮である岩峯寺から室堂までの禅定の路傍に中世から近世にかけて安置された石塔と石仏群で、三十三観音像や地藏菩薩像など44体が据えられている。立山禅定の道しるべであるとともに、往時の人々の信仰心を窺い知ることができる。



	資産の名称	保護の主体	保護の種別	面積	概要
10	地獄谷（称名滝とその流域）	県	天然記念物・史跡名勝	約9,800,000m <sup>2</sup>	立山の火成活動や称名川によって形成された自然地形や遺構の数々である。玉殿岩屋は開山縁起の阿弥陀如来出現の洞窟であり、地獄谷には様々な地獄が見立てられ、下流の侵食断崖は悪城の壁といったように山岳信仰に由来する名称がつけられている。
11	若宮社殿	町	有形文化財	約13m <sup>2</sup>	近世に立山信仰の中宮寺であった芦嶺寺の雄山神社に所在する木造切妻造平入建物で、桁行1間、梁行2間の小ぶりながら精巧に造られた社殿である。天正16年（1588）の棟札があり、立山信仰の祈願殿としての役割を果たしている。
12	旧善道坊		（国指定候補） の文化財	約120m <sup>2</sup>	立山信仰の宿坊施設としては改造されずに現存する唯一の建造物で、19世紀中頃の木造平入板葺建物である。内部は接客と宿泊のための部屋割りとなり、虹梁や木鼻等の細部構造に宗教建築としての色彩が認められる。
13	弥陀ヶ原		（国指定候補） の文化財		標高1,600～2,000mで、約10万年前の火砕流と溶岩で形成された広大な台地である。湿原となり池塘が発達している。仏教の受容により、夏季には高山植物が咲き乱れる穏やかな高原地帯であることから命名されたものである。

（イ）砂防 - 山と水を治める資産

	資産の名称	保護の主体	保護の種別	面積	概要
14	真川の跡津川断層（露頭面）	国	天然記念物	約22,000m <sup>2</sup>	跡津川断層は総延長約60kmの世界的にも活発な活断層で、安政5年（1858）のM7.1の飛越地震の震源地である。露頭面は左右の地層が断層線で真直ぐにずれており、左側の花崗岩と右側の礫層が垂直方向に約60mで明瞭にずれている。
15	白岩砂防堰堤	国	登録有形文化財・ 国指定候補の 文化財		昭和14年に建設された本堰堤の高さ63m、7基の副堰堤も含めると108mの高さを誇る日本一の重力式コンクリート砂防堰堤である。立山砂防の基幹堰堤で、カルデラ内の約2億m <sup>3</sup> の土砂を調整する機能を有している。「砂防の父」と呼ばれる赤木正雄が計画した堰堤で、常願寺川流域直轄砂防事業の初期構造物である。
16	本宮砂防堰堤	国	登録有形文化財・ 国指定候補の 文化財		常願寺川本流に設けられた昭和12年建設の大規模な重力式コンクリート堰堤である。日本最大の貯砂量500万m <sup>3</sup> を誇り、堤長107m、越流部堤高22mで、表面は間知石積と景観に配慮した外観を呈する。
17	泥谷砂防堰堤	国	登録有形文化財・ 国指定候補の 文化財		立山カルデラの湯川最深部に昭和13年に建設された重力式コンクリート堰堤である。標高差122m、延長457mの区間に堰堤20基、床固3基が連続的に築かれた階段式砂防堰堤群である。
18	立山砂防工事専用軌道	国	登録記念物・ 国指定候補の 文化財	約28,800m <sup>2</sup>	昭和4年に立山カルデラ内の工事のために建設された砂防工事専用の資材運搬軌道である。軌道延長は18kmで、急勾配のため、世界的にも例を見ない全区間42段、樺平区間だけでは連続18段のスイッチバックが設けられている。

	資産の名称	保護の主体	保護の種別	面積	概要
19	立山カルデラ		国の文化財（国指定候補）	約29,000,000m <sup>2</sup>	常願寺川の上流部で東西約6.5km、南北約4.5kmの楕円形の巨大な窪地であり、長期にわたる侵食と安政5年の飛越地震の大鷲崩れによる大量の土砂が堆積する。現在、大規模な砂防事業が継続されている。
20	立山温泉跡		国の文化財（国指定候補）		立山カルデラの西端に所在した立山温泉は、天正8年（1580）頃から昭和44年まで多くの文人墨客で賑わったいわば文化サロンであった。立山登拝の基地としての機能も有し、ウェストンやデ・レーケなど著名人が来湯した。
21	浮田家住宅	国	重要文化財	約5,200m <sup>2</sup>	江戸時代の黒部奥山廻役を務めた役宅の建物で、文政11年（1828）の木造平屋建寄棟造の主屋、寄棟造茅葺の表門、切妻造棧瓦葺の土蔵が配置される。安政5年（1858）の飛越地震においては、立山カルデラの土砂崩壊の状況調査の任にあたった。

（ウ）発電 - 山と水を活かす資産

	資産の名称	保護の主体	保護の種別	面積	概要
22	黒部峡谷附猿飛並びに奥鐘山	国	特別名勝・天然記念物	80,829,000m <sup>2</sup>	北アルプスの隆起と侵食によって形成された日本一深いV字形の大峡谷で、兩岸の深緑と断崖絶壁の様相は世界に誇る優美な自然景観である。立山、劔岳と後立山の山頂から「十字峡」や奥鐘山までを含み、藩政時代には黒部奥山廻役の監視下で森林の保護が図られた。
23	薬師岳の圏谷群	国	特別天然記念物	約212,000m <sup>2</sup>	薬師岳の東側の稜線に沿って4箇所の圏谷が並ぶ。氷河期の2万年前に形成されたもので、大きなもので南北400m、深さ200m程の大きさを誇る。
24	上滝発電所	国	登録有形文化財（国指定候補の文化財）	678m <sup>2</sup>	旧県営電気事業の施設として大正13年に建設された発電所で、上流の松ノ木発電所から落差66.9mで3基の水車で発電する。鉄筋コンクリート造平屋建の建造物である。
25	松ノ木発電所	国	登録有形文化財（国指定候補の文化財）	537m <sup>2</sup>	旧県営電気事業の施設として大正13年に建設された発電所で、上流の中地山発電所から引水して2基の水車で発電する。鉄筋コンクリート造平屋一部2階建で、内部屋根構造は下弦材をアーチ状とした鉄骨トラスで切妻状の屋根を構成する。
26	中地山発電所	国	登録有形文化財（国指定候補の文化財）	237m <sup>2</sup>	旧県営電気事業の施設として大正13年に建設された発電所で、原貯水池から引水して1基の水車で発電する。切妻屋根の鉄筋コンクリート造平屋建の建造物である。
27 の 1	黒部川第二発電所		国の文化財（国指定候補）		昭和11年に建設された鉄筋コンクリート造の発電所である。外観正面は柱の縦線と三段の窓ラインの横線で構成され、屋根には大きな庇が据え付けられた国際建築様式の建物で、個性的な発電所として知られる。日本の代表的建築家であった山口文象の設計で、幾何学的な外観構図が峡谷美に融合し、デザイン的に優れた歴史的建造物である。

	資産の名称	保護の主体	保護の種別	面積	概要
27 の 2	目黒橋		国指定候補 の文化財)		黒部川を横断して発電所に進入する長さ約75mの鉄道橋で昭和9年に建設された。近代日本では2例しかないフィーレンディール橋のひとつで、水平美が強調された発電所とのバランスが見事な歴史的建造物である。
28	黒部川第三発電所		国指定候補 の文化財)		昭和15年に建設された鉄筋コンクリート造の発電所である。外観正面は柱をピラスター状にして垂直性を強調し、陸屋根にはわずかに庇を突出させる。急峻な河川の断崖地形を上手く活用し、デザイン的に工夫のみられる建造物である。高熱地帯や泡雪崩を克服し建設された歴史的な建物としても価値がある。
29	小屋平ダム		国指定候補 の文化財)		日本の代表的建築家・山口文象の設計による昭和11年竣工の重力式コンクリートダムである。越流部からエプロンにかけての流水曲面と前すばまりの導流壁曲線や二条の流雪路と一条の取水口排砂路を円弧のデザインでまとめるなど、厳しい自然条件を「用」と「強」だけでなく、「美」にまで昇華しながらまとめあげられた特徴的で見どころの多い歴史的建造物である。付随する沈砂池のデザインにも造形的な見どころが多い。
30	仙人谷ダム		国指定候補 の文化財)		昭和15年に建設された重力式コンクリートダムで、デザイン的には小屋平ダムを一回り小さくしたダムである。前すばまりの導流壁曲線は、水流の減勢効果も意図されており、小屋平ダムと同様に技術的・造形的に優れたダムである。
31	水平歩道		国指定候補 の文化財)		大正9年、黒部川第三発電所の建設資材運搬のために設けられた歩道で、榎平と仙人谷間の約13kmを結ぶ。黒部川左岸の標高約1,000mの絶壁に、幅約70cmでコの字状に設けられた歴史的な歩道である。
32	旧日電歩道		国指定候補 の文化財)		黒部ダムと黒部第四発電所の建設を目的とした調査のために、黒部峡谷の絶壁に設けられた幅50cm程の歩道。大正14年から昭和4年にかけて、仙人平から黒部ダムまでの16.6kmが整備された歴史的な歩道である。
33	黒部峡谷鉄道		国指定候補 の文化財)		電源開発の資材運搬用軌道として、昭和12年(大正14年に着手)に建設された鉄道である。国内では数少ない762mmの特殊軌道(ナローゲージ)が用いられ、宇奈月と榎平間の20.1kmを走る。歴史的・技術的に優れた軌道である。



## (2) 資産に含まれる文化財

### 構成要素ごとの位置図と写真

名称：1 立山室堂	位置：中新川郡立山町 芦峯寺ブナ坂外国有林	指定：重要文化財
-----------	--------------------------	----------



名称：2 雄山神社前立社壇本殿	位置：中新川郡立山町 岩峯寺1	指定：重要文化財
-----------------	--------------------	----------



名称：3 大岩日石寺石仏	位置：中新川郡上市町 大岩163	指定：史跡（重要文化財）
--------------	---------------------	--------------



10頁～22頁の表中の地図は、富山県発行「とやまの姿」を使用している。



名称：4 上市黒川遺跡群	位置：中新川郡上市町 黒川字上山他	指定：史跡
--------------	----------------------	-------



名称：5 称名滝	位置：中新川郡立山町 芦峯寺ブナ坂外国有林	指定：名勝・天然記念物
----------	--------------------------	-------------



名称：6 立山の山崎圏谷	位置：中新川郡立山町 芦峯寺国有林立山事業 区第63林班	指定：天然記念物
--------------	------------------------------------	----------





名称：7 芦峯雄山神社境内杉林	位置：中新川郡立山町 芦峯寺2	指定：（県指定天然記念物・国指定候補の文化財）
-----------------	--------------------	-------------------------



名称：8 芦峯閻魔堂の仏像群	位置：中新川郡立山町 芦峯寺野口割45 - 1	指定：（県指定有形民俗文化財・国指定候補の文化財）
----------------	----------------------------	---------------------------

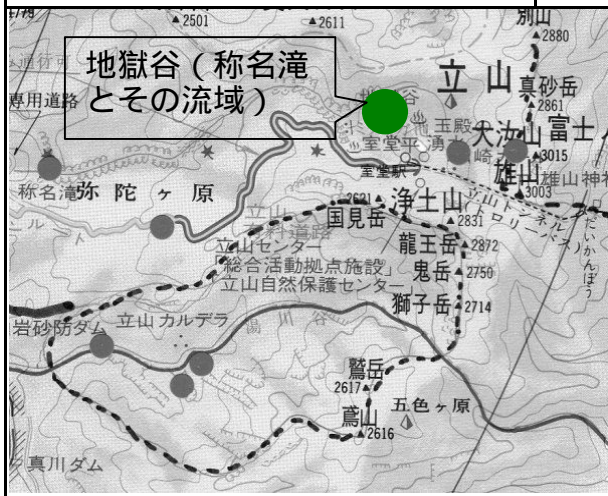


名称：9 立山参道の石塔並びに石仏群	位置：中新川郡立山町 芦峯寺他	指定：（県指定有形民俗文化財・国指定候補の文化財）
--------------------	--------------------	---------------------------

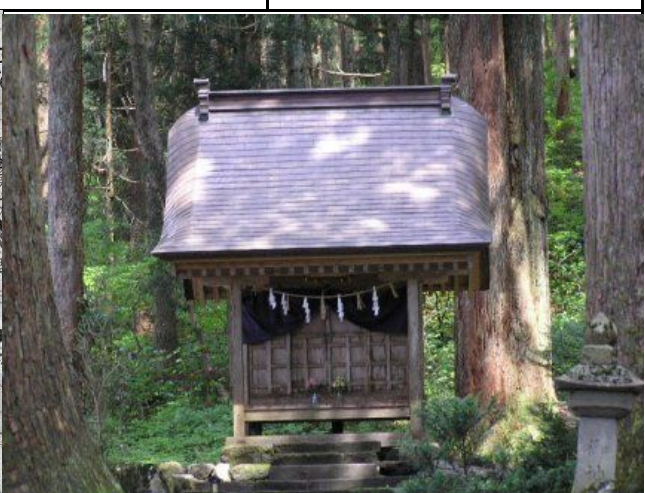




名称：10 地獄谷 (称名滝とその流域)	位置：中新川郡立山町 芦峯寺字大日外	指定：(県指定史跡、名勝、天然記念物・国指定候補の文化財)
-------------------------	-----------------------	-------------------------------



名称：11 若宮社殿	位置：中新川郡立山町 芦峯寺2	指定：(町指定有形文化財・国指定候補の文化財)
------------	--------------------	-------------------------



名称：12 旧善道坊	位置：中新川郡立山町 芦峯寺古屋敷	指定：(国指定候補の文化財)
------------	----------------------	----------------

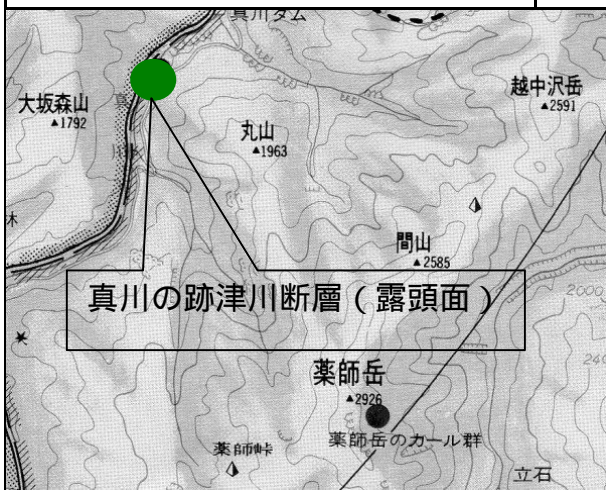




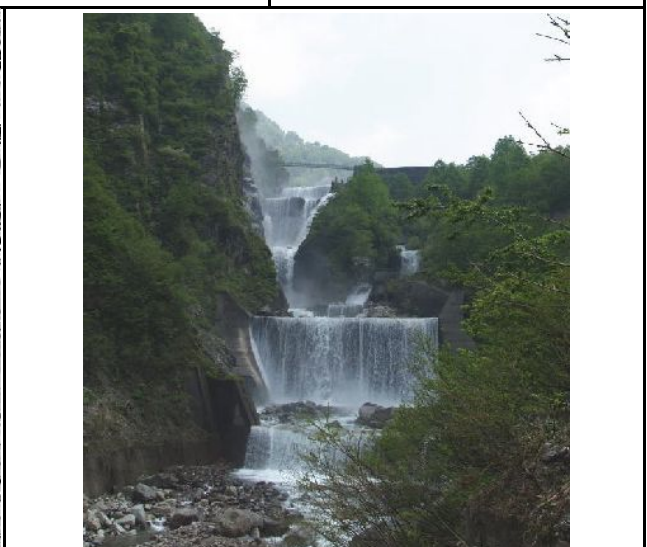
名称：13 弥陀ヶ原	位置：中新川郡立山町 芦峯寺ブナ坂外国有林	指定：（国指定候補の文化財）
------------	--------------------------	----------------



名称：14 真川の跡津川断層（露頭面）	位置：富山市有峰字真川谷割22-6	指定：天然記念物
---------------------	-------------------	----------



名称：15 白岩砂防堰堤	位置：富山市有峰真川割、中新川郡立山町芦峯寺字水谷白岩	指定：（登録有形文化財・国指定候補の文化財）
--------------	-----------------------------	------------------------

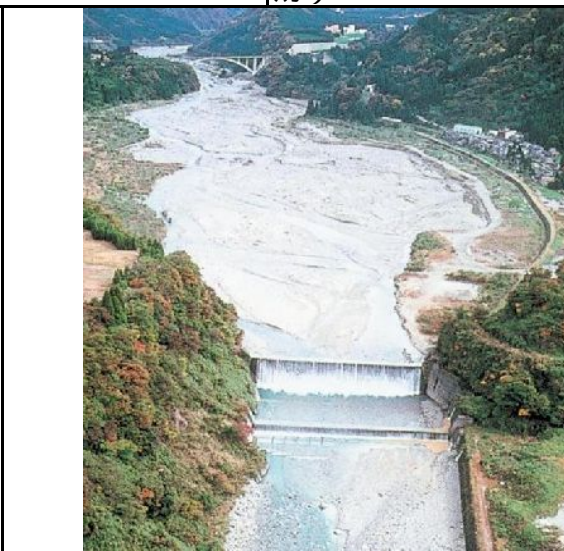




名称：16 本宮砂防堰堤

位置：富山市本宮、中  
新川郡立山町芦峯寺

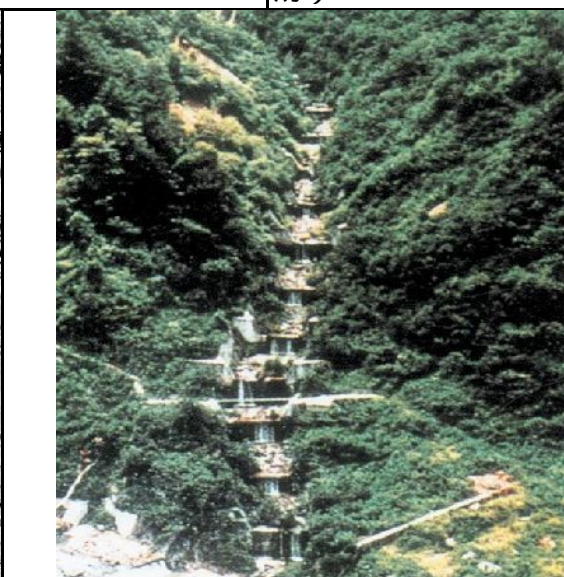
指定：（登録有形文化  
財・国指定候補の文化  
財）



名称：17 泥谷砂防堰堤

位置：富山市有峰地先

指定：（登録有形文化  
財・国指定候補の文化  
財）



名称：18 立山砂防工事専用軌道

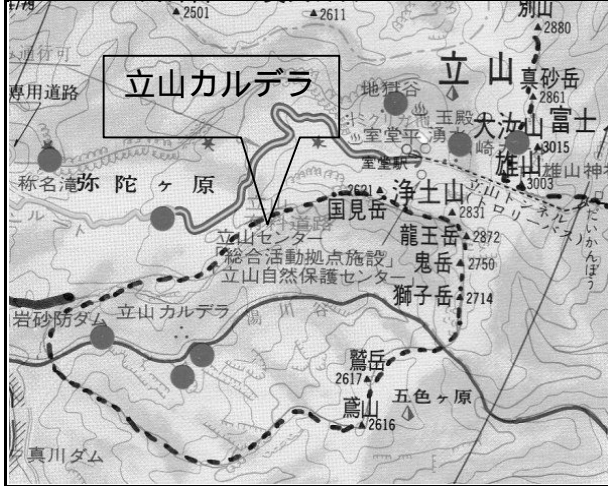
位置：中新川郡立山町  
芦峯寺ブナ坂外国有林

指定：（登録記念物・国  
指定候補の文化財）





名称：19 立山カルデラ	位置：中新川郡立山町 芦峯寺ブナ坂外国有林	指定：（国指定候補の文化財）
--------------	--------------------------	----------------



名称：20 立山温泉跡	位置：富山市有峰地先	指定：（国指定候補の文化財）
-------------	------------	----------------



名称：21 浮田家住宅	位置：富山市太田南町 272	指定：重要文化財
-------------	-------------------	----------





名称：2 2 黒部峡谷附猿飛並びに奥鐘山

位置：黒部市宇奈月町黒部字黒部奥山国有林、中新川郡立山町芦峯寺ブナ坂外国有林

指定：特別名勝・特別天然記念物

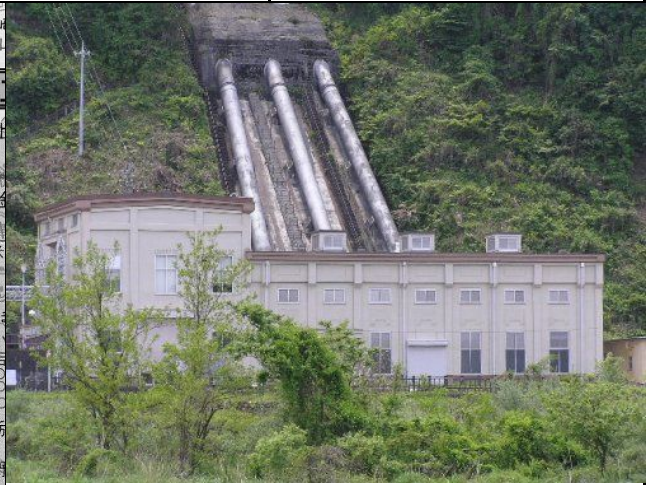




名称：23 薬師岳の圏谷群	位置：富山市有峰字黒部谷割68林班	指定：特別天然記念物
---------------	-------------------	------------



名称：24 上滝発電所	位置：富山市中滝字小野海浦割3-1	指定：（登録有形文化財・国指定候補の文化財）
-------------	-------------------	------------------------



名称：25 松ノ木発電所	位置：富山市松木字大下割446	指定：（登録有形文化財・国指定候補の文化財）
--------------	-----------------	------------------------





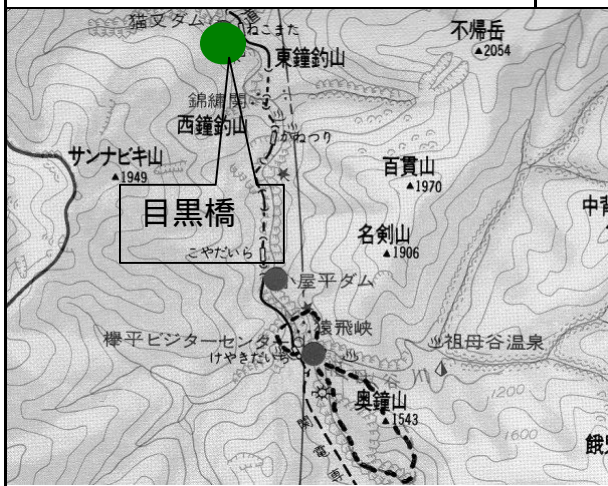
名称：26 中地山発電所	位置：富山市中地山字 上中地山割1-2	指定：（登録有形文化財・国指定候補の文化財）
--------------	------------------------	------------------------



名称：27の1 黒部川第二発電所	位置：黒部市宇奈月町 黒部字黒部奥山国有林 46口林小班	指定：（国指定候補の文化財）
------------------	------------------------------------	----------------



名称：27の2 目黒橋	位置：黒部市宇奈月町 黒部字黒部奥山国有林 46口林小班	指定：（国指定候補の文化財）
-------------	------------------------------------	----------------





名称：28 黒部川第三発電所	位置：黒部市宇奈月町 黒部字黒部奥山国有林 41口林小班	指定：（国指定候補の文化財）
----------------	------------------------------------	----------------



名称：29 小屋平ダム	位置：黒部市宇奈月町 黒部字黒部奥山国有林 45口林小班	指定：（国指定候補の文化財）
-------------	------------------------------------	----------------



名称：30 仙人谷ダム	位置：黒部市宇奈月町 黒部字黒部奥山国有林 40口林小班	指定：（国指定候補の文化財）
-------------	------------------------------------	----------------





名称：3 1 水平歩道	位置：黒部市宇奈月町 黒部字黒部奥山国有林 4 0 イ林小班外	指定：（国指定候補の文化財）
-------------	---------------------------------------	----------------



名称：3 2 旧日電歩道	位置：中新川郡立山町 芦峯寺字ブナ坂 1 1 国 有林 1 0 4 八林小班外	指定：（国指定候補の文化財）
--------------	---	----------------





名称：3 3 黒部峡谷鉄道

位置：黒部市宇奈月町黒部字黒部奥山国有林他

指定：（国指定候補の文化財）





### (3) 保存管理計画

---

#### 個別構成要素に係る保存管理計画の概要、又は策定に向けての検討状況

---

- (ア) 立山室堂（重要文化財 平成7年6月27日指定）
- ・所有者 有限会社立山室堂山荘
  - ・管理団体 立山町（平成9年2月13日）
  - ・状況 平成4年度から3箇年で解体保存修理事業を実施し、重要文化財指定後は史料等を展示する公開施設として維持される。保存管理計画は未策定であるが、町と所有者が共同で保存・活用を図っている。
- (イ) 雄山神社前立社壇本殿（重要文化財 明治39年4月14日指定）
- ・所有者 宗教法人雄山神社
  - ・状況 大正12年に解体保存修理事業を実施した後は、檜皮葺の屋根の定期的な葺き替え保存修理を実施している。保存管理計画は未策定であるが、所有者が適切な維持と管理を図っている。
- (ウ) 大岩日石寺石仏（史跡 昭和5年7月8日指定）
- ・所有者 宗教法人大岩山日石寺
  - ・状況 「大岩日石寺磨崖仏」として昭和49年6月8日に重要文化財（彫刻）指定され、保存管理計画は未策定であるが、所有者が公開を行っている。
- (エ) 上市黒川遺跡群（史跡 平成18年1月26日指定）
- ・所有者 上市町他
  - ・状況 平成6年から16年まで上市町による発掘調査がなされ、平成19年度から2箇年の予定で保存管理計画を策定する予定である。一般を対象とした普及啓発は継続的に実施され、土地公有化と環境整備が順次進められる予定である。
- (オ) 称名滝（名勝・天然記念物 昭和48年5月29日指定）
- ・所有者 農林水産省
  - ・状況 指定地は中部山岳国立公園に含まれ、近辺まで一般の見学が可能である。保存管理計画は未策定であるが、周囲の環境整備が行われ、県等による適切な管理が図られている。
- (カ) 立山の山崎圏谷（天然記念物 昭和20年2月22日指定）
- ・所有者 農林水産省
  - ・状況 指定地は中部山岳国立公園に含まれる。保存管理計画は未策定であるが、所有者等が適切な管理を図っている。
- (キ) 真川の跡津川断層（天然記念物 平成15年7月25日指定）
- ・所有者 国土交通省
  - ・状況 山岳地域の露頭面であるが、立山カルデラ砂防博物館の野外体験学習会で一般を対象として活用されている。保存管理計画は未策定であるが、所有者が適切な管理を図っている。
- (ク) 浮田家住宅（重要文化財 昭和54年5月21日指定）
- ・所有者 富山市
  - ・状況 昭和57年に半解体保存修理事業を実施した後は、茅葺の屋根の定期的な葺き替え保存修理を実施している。保存管理計画は未策定であるが、市が維持管理し、一般に公開している。
- (ケ) 黒部峡谷附猿飛並びに奥鐘山（特別名勝・特別天然記念物 昭和39年7月10日指定）
- ・所有者 農林水産省
  - ・状況 指定地は中部山岳国立公園に含まれ、険しい山岳地形であることから一般による活用には限界がある。大規模水力発電施設群が存在することから、電力会社による地域内の植物や地質鉱物等の適切な管理が図られている。
- (コ) 薬師岳の圏谷群（特別天然記念物 昭和27年3月29日指定）
- ・所有者 農林水産省
  - ・状況 指定地は中部山岳国立公園に含まれる。保存管理計画は未策定であるが、所有者等が適切な管理を図っている。



### (3) 保存管理計画

#### 資産全体の包括的な保存管理計画の概要、又は策定に向けての検討状況

##### (ア) 構成資産の性格

「立山・黒部」を構成する資産は、建造物、土木構造物、史跡、名勝、天然記念物とその形状や性質が多岐に及んでいる。個別の資産については、各々の条件に応じた適切な保存管理計画が策定される予定であるが、活用する立場からの総合的な理解しやすい観点で、また、将来にわたって保存と活用を図っていくために実効力のある有効な手法の包括的な保存管理計画を策定する必要性を認識している。

また、現在の国指定文化財は「立山室堂」や「黒部峡谷」など10件であるが、立山砂防施設と電源開発施設について、国指定の文化財としての評価が十分に可能な資産であり、文化財保護法に基づく文化財指定に取り組んでいる。

資産の性格	資産の名称(例)	性質
伝統的な建造物	立山室堂、雄山神社前立社壇本殿、浮田家住宅、旧善道坊など	<ul style="list-style-type: none"> <li>木造の伝統的建築技術による建造物</li> <li>定期的な保存修理の必要性</li> <li>恒常的な公開活用</li> </ul>
近代の建造物	黒部川第二発電所、上滝発電所、松ノ木発電所、中地山発電所	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄筋コンクリートの建造物</li> <li>定期的な修繕の必要性</li> <li>今後も稼働し続ける施設</li> </ul>
近代の土木構造物等	白岩砂防堰堤、本宮砂防堰堤、泥谷砂防堰堤など	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンクリート構造物</li> <li>大規模修繕の必要性</li> <li>今後も機能し続ける構造物</li> </ul>
地中の史跡	上市黒川遺跡群、大岩日石寺石仏、芦峯閻魔堂の仏像群	<ul style="list-style-type: none"> <li>地中に埋もれた遺跡と遺物</li> <li>活用を図るための整備の必要性</li> <li>恒常的な公開活用</li> </ul>
自然の名勝・天然記念物	黒部峡谷附猿飛並びに奥鐘山、称名滝、真川の跡津川断層など	<ul style="list-style-type: none"> <li>峡谷、滝、断層といった自然地形</li> <li>安全管理のための整備の必要性</li> <li>可能な範囲での公開活用</li> </ul>

##### (イ) 包括的な保存管理の基本方針

###### 資産構成の属性の明確化

資産の規模、性質、立地条件を詳細に調査し、各々の特性を明確にする。本質的に維持し継承する普遍的な性格と、管理のために修繕等の必要性を見極めて解析する。

###### 資産構成ごとの保存管理の明確化

資産は性質等において相違が認められることから、個別の詳細な保存管理計画の策定が必要であり、現状を踏まえ、かつ文化的背景を尊重した現状変更の基準等を記述する。

###### 活用と維持の重視

資産の多くは現在も稼働し、将来にわたって存続が必要な施設であることから、機能の維持や利用者のニーズ等に配慮し、周囲と融合した文化的景観の性格を重視する。

###### 周辺環境との一体的な保護

資産は急峻な山岳地形や急流の河川等に近接して、厳しい自然条件のもとに成立しており、一体的な保存が必要となる。

###### 整備計画の策定

一般の活用を促進するための整備計画を明確にする。

###### 保護のための組織等の確立

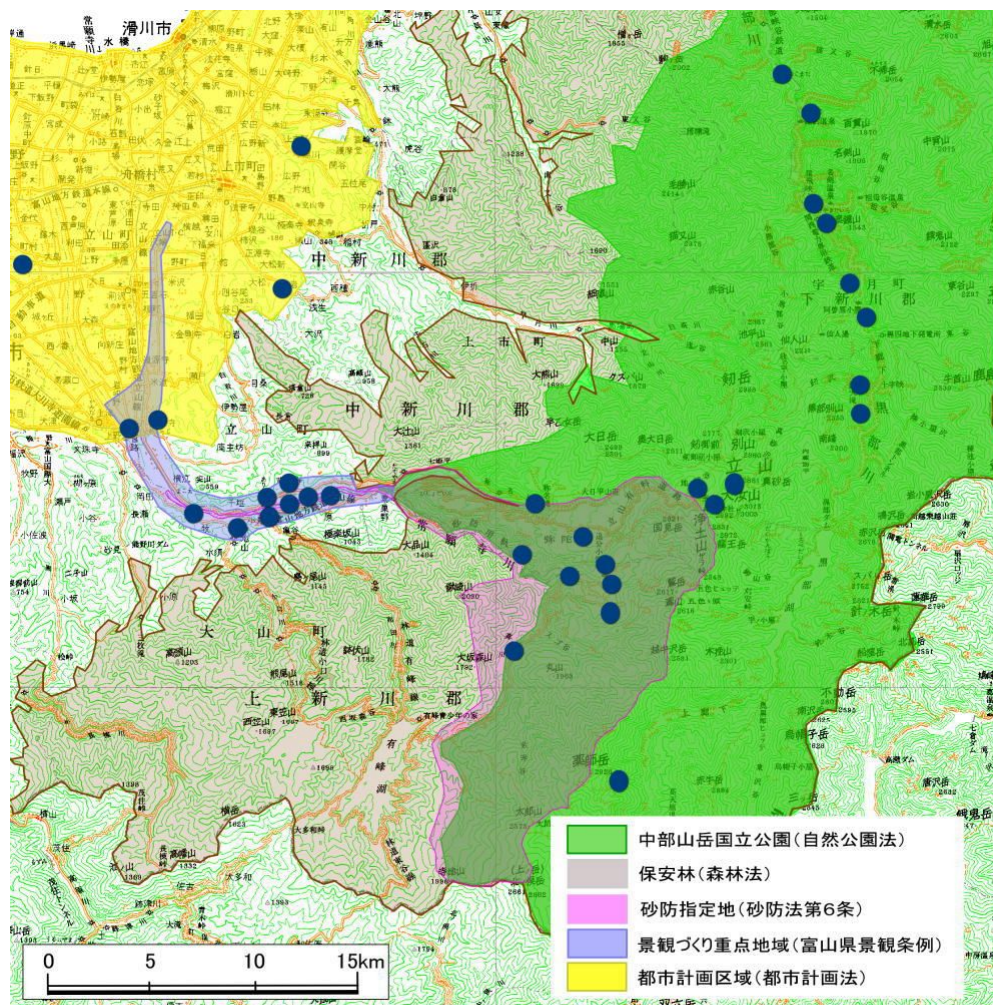
所有者、管理者、地方自治体、国等が連携した保存と活用のための組織を確立する。



### (3) 保存管理計画

資産と一体をなす周辺環境の範囲、それに係る保全措置の概要又は措置に関する検討状況

提案資産の地域	保全措置の根拠	保全措置の概要
立山山岳地域 黒部川地域	自然公園法	「立山室堂」、「称名滝」、「白岩砂防堰堤」、「泥谷砂防堰堤」、「黒部川第二発電所」、「小屋平ダム」といった資産の周囲は特別保護地区や特別地域に区分されて、開発行為について許可制
	森林法	「立山室堂」、「白岩砂防堰堤」、「泥谷砂防堰堤」、「黒部川第二発電所」、「大岩日石寺石仏」といった資産の周囲は土砂流出防備保安林及び土砂崩壊防備保安林に指定され立木の伐採等が許可制
	砂防法	「白岩砂防堰堤」、「本宮砂防堰堤」、「泥谷砂防堰堤」、「立山砂防工事専用軌道」といった資産の周囲は砂防指定地であり、土砂災害を防止する工事を実施するほか、土砂災害防止のため一定の行為について禁止もしくは制限
常願寺川流域地域	富山県景観条例	「雄山神社前立社壇本殿」、「芦峯雄山神社境内杉林」、「旧善道坊」、「上滝発電所」、「松ノ木発電所」、「中地山発電所」、「本宮砂防堰堤」といった資産の周囲は建築物の新築や土地区画形質の変更等について届出制
	都市計画法	「浮田家住宅」の周囲は線引き都市計画区域（富山高岡広域都市計画区域）で開発行為の内容に応じた許可制 「大岩日石寺石仏」と「上市黒川遺跡群」の周囲は非線引き都市計画区域で規模の大きな開発行為が規制



国土地理院発行の20万分の1地形図(富山・高山)



## (4) 世界遺産の登録基準への該当性

### 資産の適用種別及び世界文化遺産の登録基準

(ア) 適用種別：記念工作物及び遺跡（文化的景観）

(イ) 登録基準：( ) ( ) ( ) ( )

(ウ) 根拠

- ( ) 世界の多くの霊山では女人禁制であるが、立山では江戸期に、険しい谷川に架けられた橋を白装束の女人が渡ることによって魂が救われるという全国で唯一の布橋灌頂会が催されるなど、女人救済の山として、類稀な伝統文化が存在した。
- ( ) 立山カルデラに建設されている砂防施設群は厳しい自然環境のもとに、近代砂防技術を駆使して建設されたもので、我が国の伝統的な山腹工に加え、カルデラ出口に巨大なコンクリート堰堤が構築され、下流への土砂流出を防ぐ砂防堰堤群の文化的景観である。また、黒部川での発電所とダムとの存在は、急峻なV字峡の自然景観と調和した発電施設群の文化的景観を代表している。
- ( ) 砂防施設群は、膨大な崩壊土砂の流出から住民の安全を守り続ける貴重な構造物で、100年を超える大事業として苦難を越えて建設され、過去・現在・未来に継承されている。厳しい自然環境と闘いながら設けられた黒部川の発電施設群は、美しい自然景観に十分に配慮した立地やデザインを有する世界的にも顕著な見本である。
- ( ) 立山は、古典文学の至宝である万葉集で神々の住いする峰々として詠われ、平安時代の今昔物語や室町時代の能『善知鳥』では立山地獄が描写され、近世では十辺舎一九の創作紀行文にも取り上げられている。日本アルプスを世界に紹介した英国人ウェストンや天文学者の米国人ローエルらも立山に登山し、その著書に自然の美しさと厳しさを著している。

### 真実性 / 完全性の証明

(ア) 法令上の保護

文化財保護法等で指定された重要文化財、史跡、名勝、天然記念物は現状変更の制限により厳密に本来の姿が保存されている。

(イ) 意匠と材料の継承

砂防施設群と電源開発施設群は20世紀前半のコンクリート造の強固な土木構造物又は建築物であり、デザインや形状が改変されることなく当初の状態で維持されている。

木造建築物も創建当初の意匠と材料が維持・継承されている。

(ウ) 技術の保持

木造建築物については、伝統的な社寺建築技術を継承する組織により、保存修理が実施され、技術の真実性は維持されている。コンクリート造の砂防施設については、例えば断崖の内部から地表岩盤を抑えるという景観と環境に最大限の配慮を行なった最新の工法を導入しながら、堰堤が有する本来の機能と外観を継承するための技術の維持を図っている。

(エ) 環境の保全

すべての資産は立山・黒部の厳しい自然条件の中で周囲の植生や地形・地質と一体となって維持され、国立公園の厳しい規制のもとに本来の姿で維持され、継承されている。砂防施設群は時間の経過とともに荒れ果てた大地を安定化し、植生の復元とともに自然のあたかも天然堰堤のように自然に溶け込んでいく。

### 類似遺産との比較

近代の産業・交通・土木に関する文化遺産としては、「インドの山岳鉄道群」(インド)、「エッセンのツォルフェライン炭鉱遺産群」(ドイツ連邦共和国)、「D・Fウォーダ蒸気水揚げポンプ場」(オランダ王国)、「中央運河(略)」(ベルギー王国)などが登録されている。しかし、立山・黒部地域のように自然災害から暮らしを守り続けてきた人間の営為を刻む資産が集約的に存在する文化遺産群は他に類例がない。立山・黒部は、世界的に類稀な厳しい自然環境の中で、古代から人々が山と水を畏れ敬い(信仰)山と水を治め(砂防)山と水を活かす(発電)遺産として価値が高い。